

つみたてNISA対象投信、すべてが含み益に – 投信観測所

2021/09/02 12:00 日本経済新聞電子版 1163文字

2018年1月に始まった積み立て型の少額投資非課税制度（つみたてNISA）。そこから3年半の間に何度かの世界的な株安に見舞われ、制度を利用して投資信託を買った人は含み損を抱える局面もあった。それでも元本割れを気にせず、淡々と積み立て投資を続けた人は一定の成果を手に入れている。

積み立ての成果、投資対象別にランキング

つみたてNISAでコツコツ積み立て投資を続けた場合、どれくらい成果が出たか個別のファンドごとに振り返ってみよう。対象は国内公募の追加型株式投信（上場投資信託＝ETFを除く）のうち、18年1月末時点でのつみたてNISAに採用されていたファンド。18年1月に積み立てをスタートし、21年6月までの42カ月にわたり毎月月末の基準価格で買い続けたケースについて、21年7月末時点で評価した。

年間の非課税枠40万円を目いっぱい活用し、毎月3万3333円ずつ購入したことにする。投資元本の合計は約140万円で、21年7月末の評価損益がいくらになったかを計算した。その上でファンドを主な投資対象別に日本株、海外株・全世界株、バランス型の3グループに分け、評価損益の上位と下位の各5本を表にまとめた。

■つみたてNISA3年半の含み益(主な投資対象別の上位・下位各5本)

投資対象	ファンド名	運用会社(略称)	含み益(万円)	評価額(万円)	
日本株	上位	コモンズ30ファンド	39.5	179.5	
	年金積立Jグロース	日興	37.7	177.7	
	大和住銀DC国内株式ファンド	三井住友DS	34.7	174.7	
	日本株式・リートバランスファンド	岡三	34.5	174.5	
	iFree 日経225インデックス	大和	32.1	172.1	
	下位	結び2101	鎌倉	13.5	153.5
	ニッセイ日本株ファンド	ニッセイ	21.6	161.6	
	ニッセイTOPXオープン	ニッセイ	25.0	165.0	
	野村インデックスファンド・TOPX	野村	25.3	165.3	
	eMAXIS TOPIXインデックス	三菱UFJ国際	25.3	165.3	
海外株・全世界株	上位	楽天・全米株式インデックス・ファンド	70.6	210.6	
	iFree S&P500インデックス	大和	68.8	208.8	
	米国株式インデックス・ファンド	ステートストリート	68.0	208.0	
	フィデリティ・米国優良株・ファンド	フィデリティ	67.8	207.8	
	農林中金<パートナーズ>つみたてNISA米国株式 S&P500	農中全共連	66.9	206.9	
	下位	iFree 新興国株式インデックス	大和	25.1	165.1
	たわらノーロード 新興国株式	AセマOne	30.1	170.0	
	SBI・新興国株式インデックス・ファンド	SEI	31.2	171.2	
	Smart-i 新興国株式インデックス	りそな	31.7	171.7	
	三井住友DC新興国株式インデックスファンド	三井住友DS	31.9	171.9	
バランス型	上位	eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)	39.2	179.2	
	eMAXIS マイマネージャー 1990s	三菱UFJ国際	39.0	179.0	
	のむらつぽ・ファンド(積極型)	野村	38.7	178.7	
	SMT 世界経済インデックス・オープン(株式シフト型)	三井住友TAM	38.4	178.4	
	たわらノーロード バランス(積極型)	AセマOne	38.2	178.2	
	東京海上・円資産インデックスバランスファンド	東京海上	2.7	142.7	
	たわらノーロード 最適化バランス(保守型)	AセマOne	3.4	143.4	
	DCニッセイワールドセレクトファンド(安定型)	ニッセイ	7.5	147.5	
	下位	ニッセイ・インデックスパッケージ(国内・株式/リート/債券)	ニッセイ	9.9	149.9
	eMAXIS 最適化バランス(マイゴールキーパー)	三菱UFJ国際	12.3	152.3	

※QUICK資産運用研究所調べ。データは2021年7月末時点。算出対象は18年1月末時点でのつみたてNISA採用の国内公募追加型株式投信(ETFを除く)。18年1月から積み立てをスタートし、21年6月まで毎月月末の基準価格で3万3333円ずつ積み立てた場合を21年7月末時点で評価。百円単位も含めてランキング。元本合計は約140万円。投資対象の区分はQUICK独自の分類。

運用成績は「海外株・全世界株」が優位

上位5本の含み益が多かったのは、海外株・全世界株で運用するグループ。首位は「楽天・全米株式インデックス・ファンド<愛称：楽天・バンガード・ファンド(全米株式)>」で、含み益は70万円以上と、元本の約140万円がおよそ1.5倍になった。

複数の資産で運用するバランス型は、上位5本の含み益が40万円弱で拮抗した。首位の「eMAXIS 最適化バランス(マイストライカー)」は、国内外の株式を多く組み入れ、価格変動リスクの目標を年率20%と高めに保っている。ほかの4本も株式への投資割合が高いタイプが並んだ。

日本株のグループでは、「コモンズ30ファンド」が40万円近い含み益を上げてトップになった。それ以外の4本はバランス型の上位より含み益が少なかった。

積み立て投資、下落局面でも継続が肝心

今回の試算によると、すべての対象ファンドが3年半の積み立て投資で評価損益がプラスだった。運用成績が最下位だった「東京海上・円資産インデックスバランスファンド<愛称：つみたて円奏会>」でも、3万円弱の含み益を確保した。

つみたてNISAを使って非課税で運用できる期間は最長20年。今回は3年半ほど経過した時点でフォーカスして比べたが、ここまでの間には利用者の大半が元本割れを経験する場面もあった。今回の試算は、相場が下がる逆境でも積み立て投資を続けた人たちにとって将来の資産づくりに向け手ごたえを感じる結果といえるだろう。これから始める人も遅すぎることはない。

(QUICK資産運用研究所 西田玲子)

許諾番号30083831 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.